

「作況は95だが、実収は90以下だ！」 8月の異常気象が影響 無利子で経営資金対策

平成30年産水稻の10月15日現在の作柄（作況指数）が10月31日、農林水産省から公表さ

れ、全国では99の「平年並み」でしたが、山形県は96、庄内は95の「やや不良」となりま

JA庄内たがわ支所別 米集荷状況

単位：俵(60kg)

	平成30年産米	平成29年産米	比較
温海	14,710.0	15,276.0	96.3%
新余目	82,363.0	97,637.0	84.4%
立川	63,497.5	68,578.5	92.6%
藤島	93,550.0	120,839.0	77.4%
三川	77,018.5	94,115.0	81.8%
羽黒	86,195.5	97,585.0	88.3%
櫛引	60,331.5	62,954.5	95.8%
朝日	33,697.0	32,575.5	103.4%
合計	511,363.0	589,560.5	86.7%

(H30.11.26) (H30.07.04)

加工用米・備蓄用米・飼料用米除く

JA庄内たがわの米集荷状況は、昨年比86・7%で7万8千俵も少なくなっています。

支所別の集荷状況は、前年との比較に差があり、藤島が77・4%と最も低く、逆に朝日103・4%、温海96・3%、櫛引95・8%、立川92・6%と中山間地で前年並みとなっています。

平場では、10俵あたり米の実収は7俵から8俵で、例年より1割以上も低く、作況は90以下だとの声が出されています。

「白穂」が発生

今年の気象は、7月は少雨で高温が続き、出穂が8月3日頃で例年より3日早く、8月に入って台風13号に伴うフェーン現象で各地で「白穂」が発生し、5日から6日にかけての局地的な豪雨、台風15号に伴う16日の大雨、24日の台風20号の接近、30日から31日にかけての大雨となり、8月は

8月に各地で白穂が発生（8/10川尻）

日照時間が平年を大きく下回りました。

8月中旬の台風接近による乾いた東風の影響と、さらに9月4日～5日の台風21号上陸によるフェーン現象で、イネの消耗が大きく、異常気象が要因と考えられます。

農家からは、米の粒が小粒で細く、例年になく多量のくず米が落ちた、くず米が普通の玄米に見える、などの声が多く聞かれました。

無利子で経営資金

安倍政権の農政改悪により、今年から米の直接支払交付金10俵7500円が廃止され、減収と重なり、大きなダメージとなります。

自立分散型のまちづくり 31年度から実施へ

地域ごとに自立分散型のまちづくりを目指す「地域まちづくり未

鶴岡市では、減収した農家に農協と協働して無利子で経営資金を融資できるよう、12月議会に利子補給の補正予算を提案しています。

来年は作付増

県は26日、県米政策推進会議を山形市で開き、来年の県産米の生産の目安について、県産米の最近の売れ行きを反映させるとともに、「つや姫」や「雪若丸」の作付け面積が来年増えることも考慮し、生産の目安は、少ない場合およそ10000ト、多い場合は1万2000ト、今年よりも増えるという試算を明らかにしました。

地域まちづくり未来事業計画の策定日程

日程	会議等	地域まちづくり未来事業計画の策定の進捗
9月下旬～10月	第3回地域振興懇談会	・計画案及び31年度事業案について意見交換
11月～1月	31年度予算編成	・計画案と31年度事業の予算要求書を提出
1月末	31年度予算内示	・計画最終案の調整
2月	第4回地域振興懇談会	・計画最終案を示して報告
3月		・計画の策定と公表
31年度～9月	地域振興懇談会等	・事業進捗の報告 ・計画の見直しについて意見交換
11月～1月	32年度予算編成	・見直し語の計画案と32年度事業予算要求書を提出
2月頃	地域振興懇談会等	・見直し後の計画案を報告

来事業計画」（案）が、第3回地域振興懇談会で議論され、旧町村ごとにほぼまとまり、31年度事業化に向けて予算が編成されます。

平成31年度からおおむね3年程度を目途に実施され、財源に基金積立金と起債充当事業を合わせて「地域まちづくり未来基金」（総額50億円規模）をあてます。

地域が主体的に活動できる事業、地域の創意と意欲が生かせる事業、地域が元気を出せる事業、地域の特色を生かした独創的企画を奨励するなど、「自立分散型」まちづくりがスタートします。

庄内農高「農福連携プロジェクト」 みごと「ふるさと探究大賞」

山形県教育委員会主催の平成30年度「郷土 Yamagataふるさと探究コンテスト」が11月17日（土）、東根市タントクルセンターで開かれ、県立庄内農業高等学校の「農福連携プロジェクト」の取り組みが、みごと「ふるさと探究大賞」を獲得しました！

藤島地域の「庄内農業高校地域連携協議会」の事業として、平成28年度から社会福祉協議会と連携し、地域住民と一緒に、今年は玉川農場で野菜作りなどに取り組みました。



発表した代表4人の生徒は、今野駿（櫛引中）、菅原健人（三川中）、高橋優（藤島中）、本間翔（藤島中）の各氏です。（庄内農業高等学校HPから）

だまされては遺憾！ 米英連合軍の過小評価

青山崇

対米英戦のためいくつかの参考書がつくれ、その一つに『これだけ読めば戦は勝てる』という小冊子があり、40万人の兵士に配られた。



その中に、「今度の敵は支那(中国)軍より強い」といふ問いに、「今度の敵を支那軍に比べ

ると、将校は西洋人で下士官、兵は大部分土人であるから、軍隊の上下の精神的団結は全く零だ。ただ飛行機・戦車・自動車・大砲は支那軍より遥かに多いから注意しなければならぬが、旧式のものが多いのみならず、せっかくの武器を使う者が弱兵だからやくには立たぬ」という答えがある。しかし、米英軍の実態は、激しい空中戦で奇跡的に助かり、豪勇

＜プレゼンテーション 高校の部＞
○郷土Yamagataふるさと探究大賞
県立庄内農業高校 「農福連携プロジェクト」
○優秀賞
県立東桜学館高校 「村山市における産後ケアの課題とは」
県立新庄神室産業高校 「伝承豆の魅力」
県立米沢興譲館高校「環境DNAを用いた特定外来生物の山形県の生息域マップ作成」
県立米沢興譲館高校「山形県から全国へ！最先端技術の発信～筋肉をつくる～」
県立置賜農業高校 「地域と共に歩む置農」

雑題

其四

薦達官途多憤噴
動如長物片桜人
五輪地創糸方尽
応是誤相伝謀身

（兩人を）役職にさせたことに、怒り心頭あきれるばかりだ。どちらかと言えば、片山、桜田、両大臣 役に立たないひとだ。桜田五輪大臣、片山地方創生大臣、物議をだしては、引きとめておく糸も、ちょうど尽き果てた。これは、まさに大臣に任命したのか誤りなのだ。身（大臣）の処し方を伝えるだろう

雑題Ⅱ分類しにくい題材を詠んだ詩。薦達Ⅱすすめて役人につかせる。官途Ⅱ役人になる道。憤Ⅱ「怒」の意の雅語的表現。噴Ⅱおこる。動Ⅱともすれば。どうかすると。長物Ⅱ役に立たない。片Ⅱ片山さつき地方創生大臣。桜Ⅱ桜田義孝五輪大臣。地創Ⅱ地方創生。相Ⅱ大臣。謀Ⅱおしはかる。相談する。企てる。

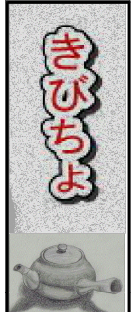
雑題

其の四

官途を薦達すること憤り多くして噴る
動れば長物の如し片桜の人
五輪 地創 糸 方に尽く
応に是れ相を誤る身を謀るを伝えん

城貞（藤の花）

で知られていた某将校が、山本五十六連合艦隊司令長官から直接、空中戦の所見を聞かれ、「海兵隊航空隊の闘志は素晴らしく、我々を上まわっている」と答えたという。このような中で『これだけ読めば戦は勝てる』に示された米英軍の認識もようやく変わり始める。たとえば、「米軍の特性」について不屈の精神を有す」と記している。そして、1944年9月の大本営発行『敵



先生を増やせ

軍戦法早わかり(米軍の上陸作戦)は、米軍の戦法は、物的優越を基調に陸海空の圧倒的な兵力を終結使用すると特徴づけるようになった。しかし、1944年以後、米軍に制空制海権が完全に握られ、陸上戦闘が中心になると、最大の脅威は米軍の戦車になると、兵士が爆薬箱もろとも戦車に体当たりする戦法―「肉迫攻撃」(肉攻をとることになった。うものを考え出した。しかし、一日・一週間の仕事を見ていない、現在の教員配置では無理とか、現場からの指摘があるとの報道だ。▲ブラック企業と言われる学校職場。家に持ち帰っても仕事なのではないのか。教育委員会の仕事は？。働き方改革の国会では、学校を話題にしなかった。▲日本共産党は、11月9日「教職員を増やし、異常な長時間労働の是正を―学校をよりよい教育の場に―」を発表した。異常な長時間労働の原因は3つあると分析し、4つの提案をしている。そして「教育とは何か、教職員とは何か」を明らかにし、多くの国民と教職員のみなさんと力を合わせ、長時間労働をなくすために全力を尽くします。●としている。▲週で一日減って、道徳に英語など、授業は増えるんだから。(石川)